

比較家族史研究会

比較家族史 7 報 会

事務局 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学社会科学研究所 利谷研究室

比較家族史学会第十回研究大会

第十回研究大会の日程が次の通り決まりましたので、お知らせいたします。

日時 昭和六十一年十一月二十九日(土)・三〇日(日)

場所 武蔵大学小講堂(地図参照)

テーマ 性と婚姻

第一日(二十九日)

会長挨拶

永原 慶二 10:30~10:40

★自由報告

中国山東省の婚姻儀礼

中生 勝美(上智大学大学院) 10:40~11:10

★特別講演

家族史研究と私

洞 富雄 11:10~12:00

★テーマ報告

問題提起

渡辺 欣雄(武蔵大学) 13:00~13:30

△霊長類学▽

霊長類の婚姻形態とヒトの家族の起源に関する一考察
長谷川真理子(東京大学) 13:30~14:00

△東南アジア▽

婚姻・性・知識

杉島 敬志(都立大学大学院) 14:00~14:30

△アフリカ▽

父系社会における婚姻とセクシィアリテ

渡部 重行(民族学振興会) 14:30~15:00

△東アジア▽

漢人社会の性と婚姻—台湾を中心として—

植野弘子(明治大学大学院) 15:30~16:00

△日本▽

日本民俗学における性と婚姻の研究視角

八木 透(仏教大学) 16:00~16:30

△社会学▽

近代社会における性と婚姻

落合恵美子(東京大学大学院) 16:30~17:00

懇親会(報告終了後) 於 生協食堂

会費 四〇〇〇円(予定)

第二日(三〇日)

△歴史学 古代中世▽

源氏物語における婚姻

西村 汎子(白梅学園短期大学) 10:00~10:30

△歴史学 近世▽

近世村落女性のライフ・サイクルと家族構成

—武州荏原郡太子堂村の事例—

森 安彦(国文学研究資料館史料館) 10:30~11:00

△法律▽

同性愛者の結婚(homosexual marriage)

—アメリカの場合—

△社会学▽

性空間論—性現象への社会学的接近—

橋爪大三郎 11:30~12:00

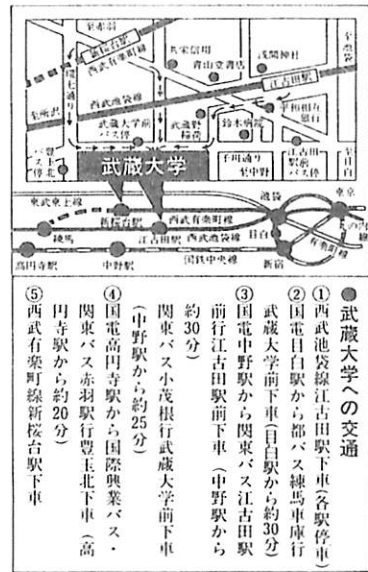
総会(13:00~14:00)

シンポジウム—性と婚姻—

司会 渡辺欣雄、江守五夫(交渉中)、竹田 旦

第十回研究大会運営委員長 渡辺欣雄

※報告の順番には、まだ若干の変更があるかも知れません。



第八回研究会報告要旨(追加)

(1) イギリス近代における未婚女性の地位

(上野雅和)

一、未婚女性 (spinster → old maid) とは、三十五歳までに結婚しておらず、蓋然性として将来も結婚しそうな女性をいう。彼女らは、娘ではあるが妻ではなく、姉妹ではあるが母ではないという意味で、親族関係上、特殊かつ例外新地位にあるとされてきた。一般に女性史は、娘→妻→母という身分の女性を中心に構成されてきたが、家族・婚姻史の裏面史である未婚女性史により補充される必要がある。未婚女性史は、①「家と女性」史を補充し、②親族関係の欠如という消極面から親族関係の社会的機能を明らかにし、③総合的な男女関係史の成立を可能にするものである。

二、イギリス近代においては、初婚年齢の上昇なしに未婚率が上昇し、家族から離れないし排出された未婚女性が、例外とされながらも、

社会構成員としての地位を承認されるようになる。未婚女性を生み出す直接・間接の社会的要因として数多くの社会的・経済的・家族的变化が指摘されているが、決定的なものは見出せない。他方、未婚女性の社会的・職業的地位の承認を求めた影の力として再評価しなければならぬ。法制度においても、近親婚禁止法の改正や既婚婦人財産法の制定を男性に決断させたのは、意図的・選択的未婚女性の存在の圧力であり、男性の職業世界の再編においても未婚女性の職域進出が大きな圧力となっている。イギリス近代における家と女性の問題は、家族から独立した未婚女性の社会的地位の研究により補充されることなしには解明しえない。

(2) 現代主婦の地位と労働

(目黒依子)

本報告では、産業化が生み出した現代の主婦という存在を中心に、近代化と女性の地位について考えてみる。

社会発展は、人間の福祉的環境の実現に貢献するという命題は、女性に関して証明されるだろうか。アメリカの社会学者W・グールドは、近代化とは長老支配から若者や女性が解放され、個人としての人権を獲得する過程で、家族制度が家長制から夫婦制に変化したことが、この

ような人権の確立を可能にする重要な要件であったとしている。しかし、夫婦ダイアドを中核とする家族制度は、性役割イデオロギーが変わ

らない限り、女性にとって男性支配からの解放を意味せず、家長制の延長線上にある、ということができる。また、J・スキャンゾーニなどは、産業革命を契機として労働の単位が個人になったことが、男女を問わず個人の自立を可能にしたと強調し、グールドと同様に近代化を個人の自立の要件であるとみている。

しかし、雇用労働・生産性・効率・職任分離などで特徴づけられる産業化の過程で生み出された現代主婦は、まさにその出現条件によって主婦という地位に固定化され、その役割は家庭という私的生産の場で果たす「公的に見えない」ものである。グールドやスキャンゾーニが指摘する個人を基礎とする家族や労働の形態は、性役割に規定されることによって現代主婦の出現にみられるような性支配の固定化を強化したことになる。家庭外における公的労働も、女にとっては二義的であるという性役割観によって低く評価され、主婦による労働の比重が増大してきた現在においても、労働市場への参加によって個人としての自立が可能となる状況ではない。

現代日本の主婦にみられる労働市場への参加パターンや労働意識は、一九七五年を境に変化が認められるものの、主婦としての地位や役割の規定に根底的な変革が生じているとはいえない。

◆事務局からのお知らせ

1. 機関紙「比較家族史研究」の刊行のお知らせ

機関紙「比較家族史研究」創刊号が江守五夫会員の御尽力により九月末に刊行されました。郵送費の都合により、会報と一緒に送りすることにしましたので御了解ください。なお、機関紙「比較家族史研究」は会費の納入者だけにお送りいたします。会費未納者は会費納入の後にお送りいたしますので、この点につきましても御了解ください。

また、会員のなかで機関紙「比較家族史研究」創刊号を別に購入されたい方には一部一〇〇〇円と郵送料実費でおわけいたします。御希望の方は必要な部数を郵便振替用紙に御記入の上、部数に応じて下記の送料を加えた金額を振り込んでください。

| | | |
|------------|---------|--------|
| 振替番号 | 東京 | 三二五二二二 |
| 名称 | 比較家族史学会 | |
| 一部 | 送料 | 二〇〇円 |
| 二部 | 送料 | 二五〇円 |
| 五部まで | 送料 | 三〇〇円 |
| 以下二部増す毎に送料 | | 五〇円増 |

会員以外の方への販売につきましては、弘文堂から一部一五〇〇円で発売しておりますので、必ず書店を通じてお申し込みください。弘文堂では直接の販売はしておりません。特に会員の

所属する大学につきまして、書店を通じて定期購読の手続きをとっていただければ幸甚と存じます。

なお、「比較家族史研究」創刊号のISBN番号は四一三三五一五〇〇七一八 C一〇三六です。

2. 会の名称の変更について

前回の総会の決議に基づき、九月一日より名称を『比較家族史研究会』から『比較家族史学会』へ変更いたしました。変更の届出を日本学術会議に出し、また郵便振替の名義も『比較家族史学会』へ変更の届出をいたしました。この点間違いのないよう、お知らせいたします。

3. 会費の納入について

会費未納の方には、振込用紙を同封いたしました。早めに納入いただけますようお願い申し上げます。

4. 自由報告の募集

第十一回研究大会以降の自由報告を募集いたしております。御希望の方は、事務局の方まで御連絡下さい。

5. 賛助会員について

賛助会員につきましては、前回の総会で了解をいただきましたが、次の二団体が賛助会員として加入されました。

財団法人 日本性教育協会
(理事長 剣木亨弘氏)
東京都千代田区神田錦町三十二
久友ビル三〇四

株式会社 日本家系協会
(代表取締役社長 鈴木秀信氏)
東京都中央区銀座三十八一四
新聞会館内

「比較家族史研究」創刊号の奥付けにあります日本性教育協会の住所の一部に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

訂正

賛助会員の住所(一三六頁)に誤りがありましたので、訂正をしてお詫びいたします。

財団法人 日本性教育協会
(理事長 剣木亨弘氏)
東京都千代田区神田錦町三十二
久友ビル三〇四

『比較家族史研究』創刊号
P59副題 実例↓事例
筆者名 史↓央
P60下段 「事例をめて」↓「事例を眺めて」

新 入 会 員

山 脇 貞 司
家 族 法

戒 能 民 江
家 族 法

高 木 富 代 子
家 族 法

寺 本 千 里

長 野 ひ ろ 子
日 本 史

光 永 洋 子
女 性 史

犬 童 美 子
女 性 史

緒 方 和 子
女 性 史

卯 野 木 盈 子
日 本 古 代 史

林 葉 子
女 性 史

立 山 ち づ 子
女 性 史

石 原 通 子
女 性 史

植 野 弘 子
民 族 学

林 研 三
法 社 会 学

堀 江 俊 一
民 族 学

喜 山 朝 彦
社 会 人 類 学

静 岡 大 学

日 本 福 祉 大 学

熊 本 県 立 八 代 東 高 校

梅 元 経 営 事 務 所

中 央 大 学

熊 本 女 子 商 業 高 校

熊 本 女 性 史 研 究 会

熊 本 女 性 史 研 究 会

高 森 高 校

熊 本 女 性 史 研 究 会

甲 佐 高 校

熊 本 女 性 史 研 究 会

明 大 大 学 院

関 東 学 院 大 学

関 東 学 院 大 学

跡 見 学 園 女 子 大 学

(5) 昭和61年10月31日

篠崎正美
社会学・女性学

聖マリア短大

生野正剛
民法

長崎大学

波平恵美子
文化人類学

九州芸術工科大学

梅木茂
家族法

福岡女子短大

伴栄子
女性史

朝倉農業改良普及所

川上房子
家族法

精華女子短大

田村譲
法社会学

帝京大学

朝倉敏夫
社会人類学

武蔵大学

鈴木博人
家族法

中央大学大学院

渡辺洋三
家族法・法社会学

帝京大学

渡部重行
社会人類学

民族学振興会

後藤光蔵
農業経済論

武蔵大学

森安彦
日本近世史

国文学研究資料館史料館

橘川俊忠
日本政治思想史

神奈川大学

7

高松靖
民法

愛媛大学

井上洋子
住居史・女性史

精華女子短大

八木透
日本民俗学

仏教大学

住所・所属変更

大平幸美

小林昌二

清水浩昭

小島宏

高井康博

二宮孝富

西野悠紀子

南方暁

落合恵美子

井上和枝

北構太郎

柳谷慶子

水林彪

百田弥栄子

編集担当 (瀬野精一郎・飯沼賢司)